

ICTを活用した、 個別最適な学びと協働的な学びの 一体的な充実に迫る授業づくり

～ICTを活用した授業力向上と
児童の自ら学び考える力向上を目指して～



本校は、文部科学省の各教科の指導におけるICT活用の基本的な考え
方を受け、「ICTを活用した、個別最適な学びと協働的な学びの一体的
な充実に迫る授業づくり」をICTを活用した授業力向上と児童の自ら学び
考える力向上を目指して「」を研究主題に掲げ、実践研究に取り組んで参
りました。これは、従来使用している文房具と同じように、ロイノート
を中心としたアプリケーション等のツールを有効活用し、個別最適な学び
と協働的な学びの一体的な充実に迫る研究を進めていくものです。ICT活
用も含め、自分に合った学習を行い、考えを整理し、グループや学級全体
に伝える際にも分かりやすく活発な交流ができる児童を育成したいと考え、
「自ら学び考え、自分の考えを表現できる児童」を、目指すための授業づ
くりを進めてきました。

校長 影山 祥仁



【交通アクセス】

都営新宿線 菊川駅下車 徒歩5～6分
都営新宿線・都営大江戸線 森下駅下車 徒歩5～6分

〒130-0024
墨田区菊川1丁目18番10号
TEL 03-3634-7476
FAX 03-3634-7450
<http://www.sumida.ed.jp/chuwasho/>



CHIUWA
墨田区立中和小学校

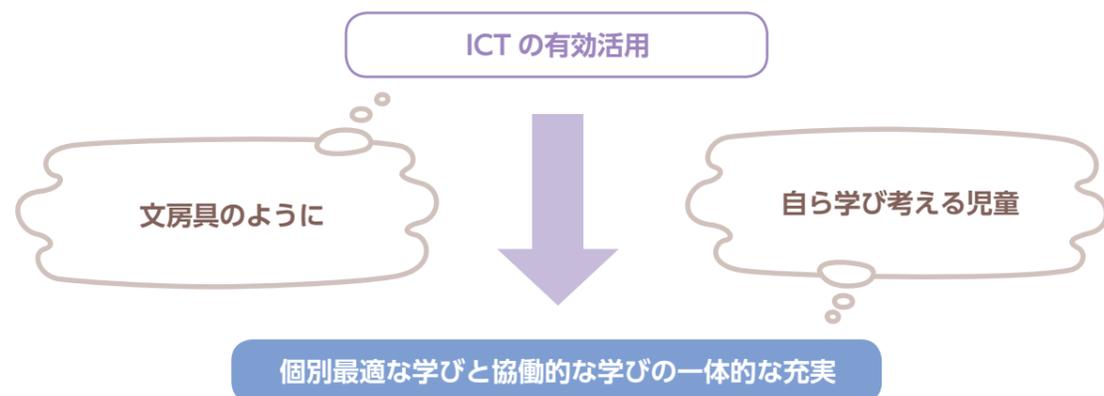
ICT を活用した、個別最適な学びと協働的な学びの 一体的な充実に迫る授業づくり ～ ICT を活用した授業力向上と児童の自ら学び 考える力向上を目指して～

本校の ICT 活用の現状

- ① ノート・ポートフォリオとして活用
- ② 主体的な学習意欲を高める効果をねらいとした活用
- ③ 個別最適な学び・指導の個別化・協働的な学びにつながる活用
- ④ 知識定着のためのモノグサアプリの活用

本校では、GIGA スクール構想でのステップ1から2への段階は概ね達成できたと考える。研究の成果から、「1人1台端末」は、教員が教えるための教具ではなく、児童が学ぶための文房具とすることで、児童の学習の質が向上していく可能性を見出すことができた。特にこれまであまり効果を実感することができなかった個別最適な学びについて効果が期待できる。個別最適な学びには2つの意味がある。1つが、指導側が一人一人にあった教材や学びの機会を提供すること。もう1つが、学習者が自分に最適な学びを自律して計画・実行できることである。後者についてはまだ明らかになっていないことが少ない。

今年度は、昨年度の成果より、従来使用している文房具と同じように、ロイロノートを中心としたICTを有効活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に迫る研究を進めていく。ICT活用も含め、自分にあった学習を行い、考えを整理し、グループや学級全体に伝える際にも分かりやすく活発な交流ができる児童を育成したいと考える。すなわち「自ら学び考え、自分の考えを表現できる児童」を目指す児童像としてイメージする。その際、教員としてどんな支援をするのか等、昨年度の研究成果を生かし、ICTを使わなくても成立する学習や、ICTを使わないほうがよりよい学習もあり、ICTはあくまでツールであることを確認して活用することを前提としていく。



検証と手だて

① 個別最適な学びの検証

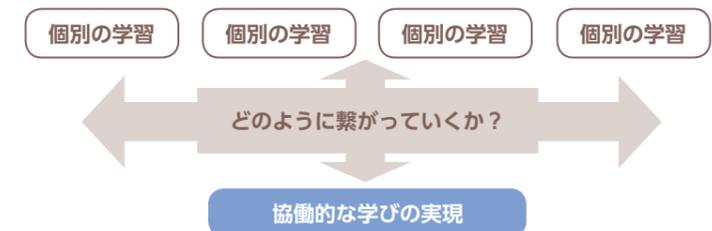
指導の個別化 一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進めることであり、その中で児童生徒自身が自らの特徴を知り、どのように学習を進めることが効果的であるかを学んでいくことなども含む。

学習の個性化 個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げることを意味し、その中で児童生徒自身が自らどのような方向性で学習を進めていったら良いかを考えていくことなども含む。

指導の個別化と**学習の個性化**を学習者視点から整理した概念が**個別最適な学び**であるが、これを指導者視点から整理した概念が**個に応じた指導**となる。今年度は、学習者視点に沿った検証を進めていく。

② 協働的な学びの検証

ICTの活用により、児童生徒一人一人が自分のペースを大事にしながらかみ共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動など、「協働的な学び」も発展させることができるはずだが、昨年度の研究では課題が多く出た。今年度は、ICTを活用した「協働的な学び」での有効的な活用を検証する。



③ 個別最適な学びと協働的な学びの一体化の検証

児童生徒の資質・能力育成のため、各教科等の特質に応じ、児童の実態を踏まえながら、ICTを活用した新たな教材や学習活動等も積極的に取り入れつつ、それにより実現される新しい学習活動について、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に効果を上げているかを確認しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりになっているか検証する。



④ 様々なICT活用方法の検証

「主体的な学びを充実させるためのICTの活用」と言っても、「興味・関心を引き出す」「見通しをもたせる」「自己の学習活動のふり返りに生かす」など様々な場面が考えられる。そして、その一つの場面にも様々な活用方法が考えられる。昨年に引き続き、全教員で校内研究として取り組み、研究授業を中心に多くの活用方法を検証していき、より効果的な活用方法を明らかにしていけるようにする。

5年生 体育科

器械運動領域「マット運動」

個別最適な学びと協働的な学びの一体化



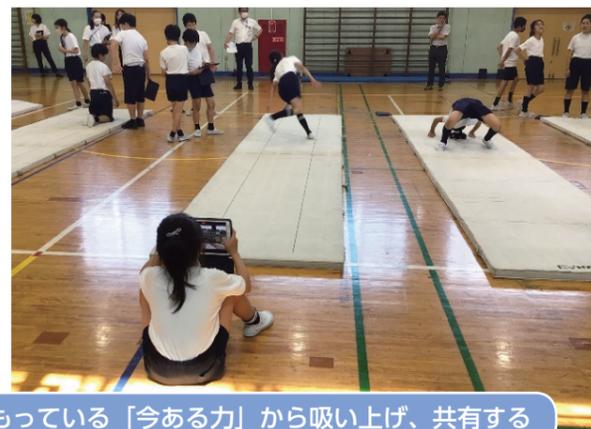
自己の能力に合わせて練習の場を選択



個別最適な学び



協働的な学び



児童に教え込むのではなく、児童が持っている「今ある力」から吸い上げ、共有する



個別最適な学びと協働的な学び一体化の検証



学習資料を一元化することにより、児童はいつでも、どこでも資料を確認したり、閲覧したりして課題を修正できた。

6年生 社会科

大陸から学んだ国づくり

一人一人自分に合った課題の選定



文房具のようにipadを扱っている



自分で課題を設定

情報集めや資料の読み取る力を高めることができた。



調べたことの共有 (ジグソー法)



協働して予想する活動を行う



情報の共有から考えを出し、それを全体で考えることで自分以外の様々な考えにふれさせることができた。

4年生 社会科

ごみの処理と利用

個別最適な学びと協働的な学びの一体化



学習課題の設定

ロイロノートを活用し、学習課題を設定する前に、予想や問いを見出しておくことができ、個別学習の中で、目標を設定することができた。



ICTからの資料配布



共有機能の活用



それぞれ考えの共有



個別の学習と協働的な学びをスムーズに結び付けた。

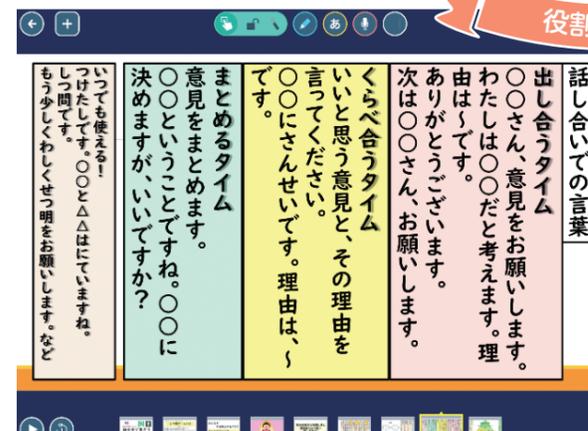
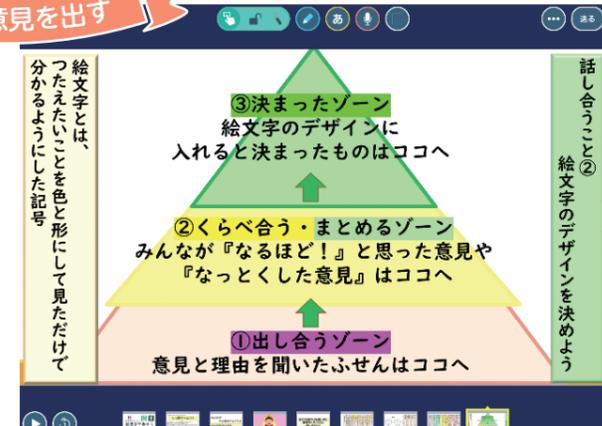
3年生 国語科

絵文字で表そう

個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指した話し合い活動



自分の意見を出す



役割の明確化



共有スペース

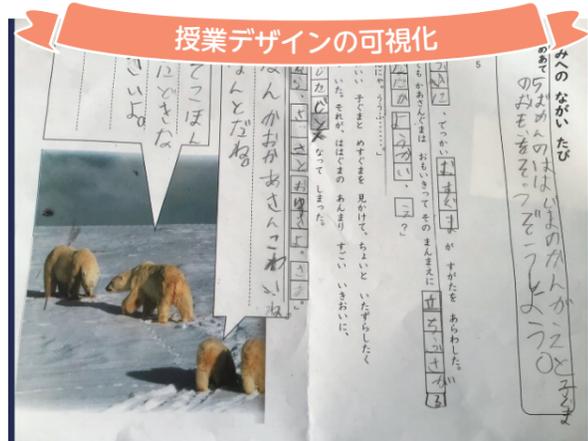


テーマ設定を工夫することで、個別最適な学びと協働的な学びを「話し合い」の活動で一体化することができた。

1年生 国語科

どうぶつしゃしんてんをひらこう

授業デザイン(授業の流れ)
を意識できる学習形態



授業デザインの可視化



授業の目的を共有

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
うみへのはながい												
うみへのはながい												

個別の考えを共有



個別学習の集約を目的とした一斉指導

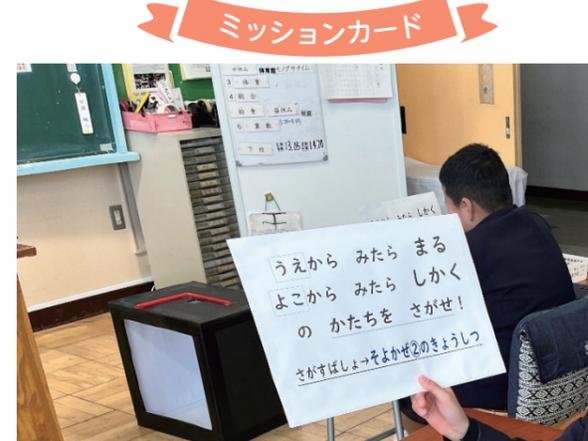


「写真を見る→自分の考えをもつ→友達と交流する→文章と出会う→改めて交流する」
という学習の流れを繰り返すことで、子供たちに毎時間学習の見通しをもたすことができ、
個別学習と協働的な学びの一体化になった。

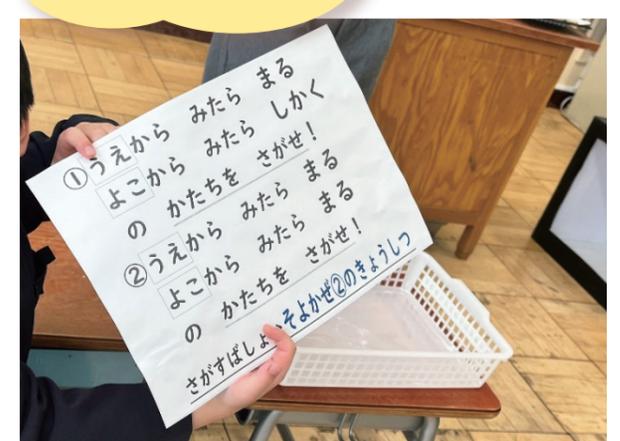
そよかぜ 算数科

かたちあそび

個別課題の設定



ミッションカード



協働的な学びの検証

Keynote



他の児童を手本とする



撮影装置



興味・関心の高い児童が授業の流れをつくり、モデルとなる児童から他児が学ぶことで、
集団としての学習と、一人一人のニーズに応える学習が実現した。

成果

① 個別最適な学びの学習法及び指導法の具現化

- 練習の場を設定することで、児童が技のポイントを理解したり、自己の能力に合わせて練習の場を選択したりする姿が多くみられた。(体育)
- 課題解決の時間を作ることで、自発的な学び合いが起きた。
- 一人一人自分に合った課題の選定を行うことで、自分で課題を設定し、情報集める力や資料の読み取る力を高めることができた。

② 個別最適な学びと協働的な学びの一体化の実証

- 技のポイントは児童に教え込むのではなく、児童がもっている「今ある力」から吸い上げ、共有していくことができた。(体育)
- 解決に近づかない児童への補助となった。
- 自分の考えに友達の考えを重ねていくことで、深い学びになった。
- 情報の共有から考えを出し、それを全体で考えることで自分以外の様々な考えにふれさせることができた。
- 学習資料をICTに一元化することにより、児童はいつでも、どこでも資料を確認したり、閲覧したりして課題を修正できた。
- グループによる調べたことの共有(ジグソー法)では、グループで情報を共有し、知見することで課題解決に効果的だった。

③ 文房具のようなツールとして扱うICTの活用法

- 使う児童、使わない児童と、児童が自分の学習に合った使い方を選択していた。
- iPadを文房具のように個人の学習に合った使い方をしていた。
- iPadを教材化することができた。

今後の課題

- 一人になりすぎてしまう児童への更なる声掛けや手だてを講じる。(体育)
- 考えの共有をさらに確実なものとする。
- 情報を収集するための資料を選別し、課題が明確な発問をする。
- 撮影の仕方、アングル等技術スキルについての指導を確実に行う。
- 活動をする際に、ICT操作や資料過多にならないように、事前の準備を十分に行う。

● 御指導いただいた講師の先生方

日本体育大学児童スポーツ学部 助教	鈴木 康介 先生
墨田区立業平小学校 校長	伊藤 康次 先生
千葉大学教育学部国語教育研修室 教授	寺井 正憲 先生
東京都立中野特別支援学校 主幹教諭	日高 浩一 先生

● 研究に携わった教職員

◎研究推進委員長 ○研究推進委

校 長	影山 祥仁	そよかぜ学級	中里 照久
副 校 長	伊藤 雅一	そよかぜ学級	山本 史子
1年1組	塚本 悠美	そよかぜ学級	薊 裕也
○1年2組	白上 素子	○音 楽	沖山 健之介
2年1組	阿部 美奈子	図 画 工 作	天城 拓哉
2年2組	村上 優美	算 数 少 人 数	廣田 裕一
3年1組	小松 紘子	養 護	石井 由里子
3年2組	菅原 かの子	栄 養 士	鈴木 道子
4年1組	長島 圭史	特別支援専門員	高橋 克典
○4年2組	田口 正明	事 務	北村 昭子
◎5年1組	千葉 哲也	介 助 員	佐藤 久美
5年2組	徳田 真子	介 助 員	坂本 州
6年1組	津田 侑汰	介 助 員	武 美枝子
6年2組	稲富 瑞紀		

あしがき

副校長 伊藤 雅一

今年度は、2年間研究してきたことからさらに踏み込んだ研究主題を設定し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に焦点を絞り、両者を一体的に捉えながらより充実した授業づくりを目指すことにしました。そして、研究授業を重ねることで、ICT機器を文房具のように一つのツールとして活用する方法を学ぶことができました。さらに、個別最適な学びにつながる学習の仕方や協働的な学びにつなげる指導法について理解を深めることができました。次年度は、より児童に還元できる授業を目指しながら、研究を深めていく所存です。

最後になりましたが、日本体育大学児童スポーツ学部助教である鈴木康介先生、墨田区立業平小学校校長である伊藤康次先生、千葉大学教育学部国語教育研修室教授である寺井正憲先生、東京都立中野特別支援学校主幹教諭である日高浩一先生には、授業に対する丁寧なご指導や、教員が分かりやすいご講義をいただいたことで、実り多い研究ができたことに深く感謝申し上げます。